

The image shows a bright, modern kitchen and dining area. On the left is a kitchen island with a stainless steel sink and a modern faucet. Above the island are wooden shelves with various kitchen items. In the center is a dining table with two wooden chairs. A large window in the background lets in plenty of natural light. The floor is made of light-colored wood. A black rectangular box with white text is overlaid in the upper center of the image.

LIMINI

Master Living

「わたしの暮らし」が、ここにある。

LIMINIだから叶う笑顔あふれる新生活

あなたの笑顔のための
「究極の平屋」
それが、LIMINI(リミニ)です。



LIMINI
Master Living



LIMINI = Like a minimalism

究極の平屋
ゼロLDKを提案する
LIIMINIとは？

家も車も簡単に借りることができる時代。
お金のかかるマイホームなんて無駄なだけ。

そう思っていないませんか。

「LIIMINI」は人生の無駄を嫌うあなたにこそ、
この「究極の平屋」をご提案します。

つながるという

コンセプトのもと創られた住まいは、
すべての無駄を削ぎ落とし、

必要なものにだけ徹底的にこだわった平屋です。

ゼロLDKをベースとした空間は、
個々のライフスタイルに合わせて

柔軟にカスタムすることができます。

家族と、つながる。

時間を、つなげる。

人生を、つなげていく。

これからの笑顔のための住まいは、
決して無駄ではないはずです。

「LIIMINI」は自信を持って、

ミニマルで豊かな暮らしのための
手助けをさせていただきます。

仕切りのない 小さな家。
収納も少ないけど、不便じゃない？

いいえ、
むしろ「プラス」な
ポイントです。



持たない暮らしが くれるもの

物が多く、片付けに追われて心に余裕がない…
家族との時間も趣味の時間も全然足りていない…

このような悩みを抱えている方は
多いのではないだろうか。

せっかくの住まい。

心安らぐ場所をつくりたいと、

私たちはいつも考えてきました。

そこで「LIMIN」は、思いついたのです。

収納をあえて少なくすることで、

無駄を自然と手放すことができ、

そしてその代わりに、

本当に心ときめくものを選ぶことができるはず。

そうすることで、片付けに追われていた時間は、

かけがえのない時間になるのではないかと。

だから「LIMIN」が提案するのは、

仕切りも、収納も少ない、小さな家。

持たない暮らしは今の世の中において、
不便な暮らしではありません。

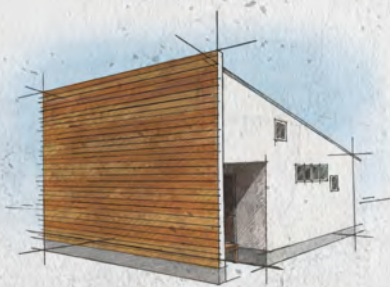
笑顔で埋められる心の余白が多いぶん、
むしろプラスだと、「LIMIN」は思っています。



CDや本だけでなく、コート等の冬物や流行
のお洋服、毎日使わないマッサージ機
や美容家電は、サブスクへ切り替えるのも
一つの方法。置き場に困るスノーボード
やビーチパラソル、キャンプ用品は、月額
保管サービスに。



大切なものを置くスペースは、十分にご用意可能。お気に入りの家具を自由に
配置して、ディスプレイのように飾るもよし。仕切りのない箱のような家だからこそ、
あなたの好みに合わせて無限にカスタムできます。



LIMINI
Koti

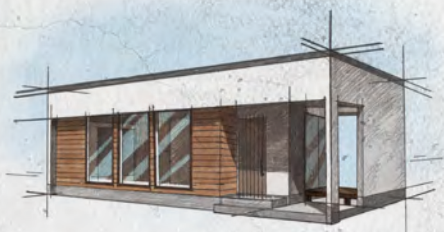
ゼロLDKでつくるxそれぞれの居場所



LIMINI
Ruutu

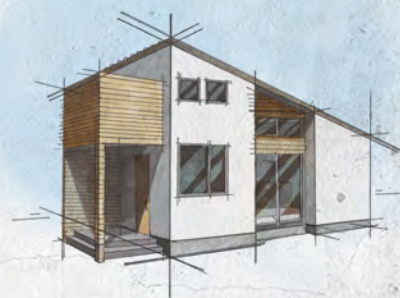
ひっそりとじっくり遊ぶ

すまいという空間をとことん考え抜いた先に、
4つのリビングがありました。



LIMINI
Polku

暮らしさえもデザインして



LIMINI
Perhe

仲直りは 我が家でのカフェで

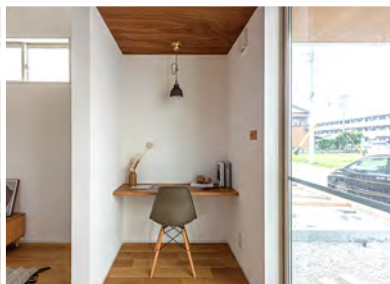
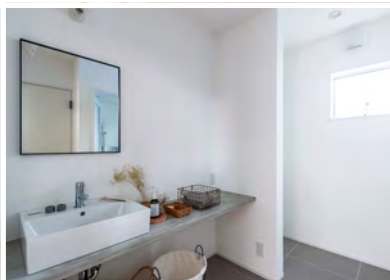
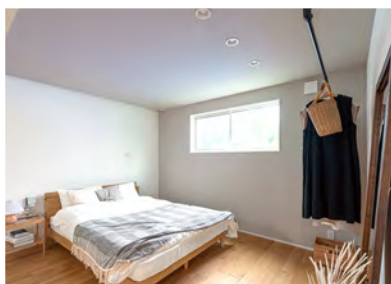
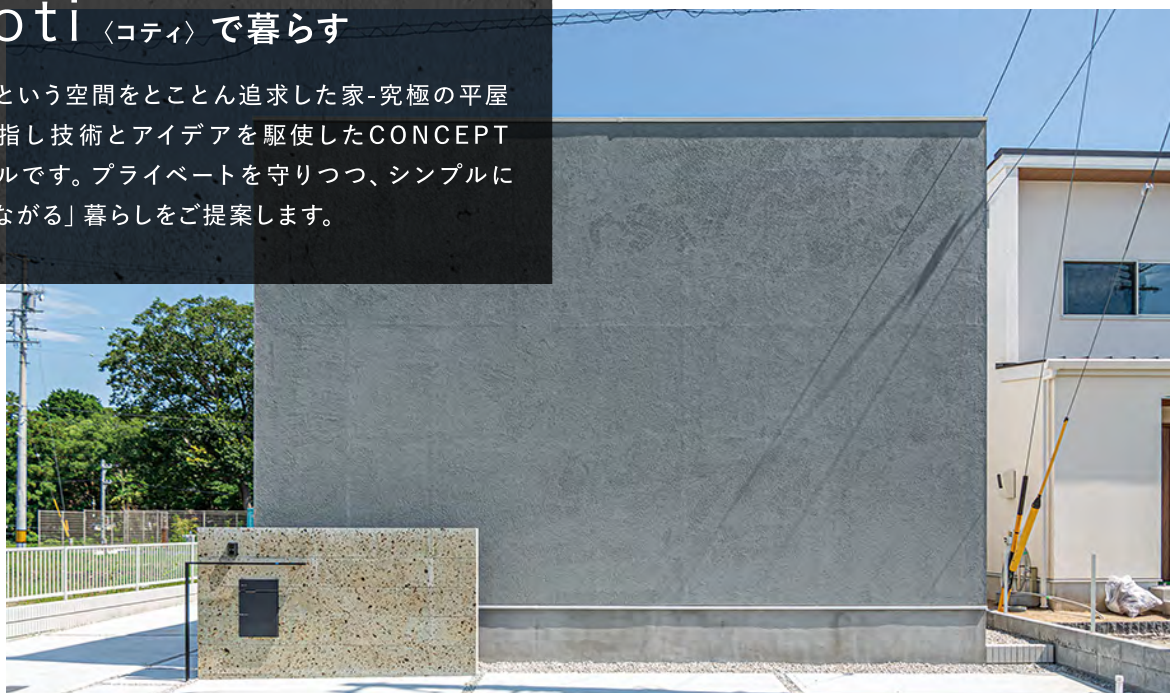
「わたしの暮らし」が、ここにある。
LIMINIのラインナップで紡がれる
4つのストーリーをご紹介します。

◀◀ Next page

LIMINI

Koti 〈コティ〉で暮らす

住むという空間をとことん追求した家-究極の平屋
を目指し技術とアイデアを駆使したCONCEPT
モデルです。プライベートを守りつつ、シンプルに
「つながる」暮らしをご提案します。





「ズ〇三」で暮らすのは、30代の夫婦。
子供を持つ予定は今のところなく、
お互いに仕事を楽しんでます。

これまでマンション住まいだったけれど、
より二人の時間を充実させるため、
思い切って一軒家を購入することに。

このゼロLDKの、空間を無理なく
共有できる点が気に入って、
人生の住まいに決めました。
印象的なファサード……
その向こう側に広がるシンプルライフを、
少しでも覗いてみましょう。

ゼロLDKでつくる それぞれの居場所

ここに越してくるまで、

私たち夫婦はバラバラだった。

仕事から帰ってきて、

ご飯を一緒に食べたら、あとは別行動。

夫は別室で仕事をしたり、

私はリビングで読書をしたり。

本当は同じ空間で過ごしたいけれど、

彼が集中できないと言うので仕方がない。

だけど、このゼロLDKに住み始めたことで、

私たちが家で過ごす時間は

ぐっと温かいものになった。

部屋の一角、オープンなスペースに

用意された備え付けのデスクは、

夫のための書斎。

トイレやキッチンへの動線もいい半個室は、

かえて仕事の質を上げているらしい。

DIYで本棚も足した。

彼はすっかり気に入ったのか、

多くの時間をこのデスクで過ごしている。

そして私は彼の背中を静かに見守りながら、

いつも通り、趣味の時間を楽しむ。

マンション暮らしの頃としていたことは

変わっていないはずなのに、

夫の姿が見えるだけでなんだか安心する。



たまにはデッキに出て、一人お酒を飲む。
一軒家でご近所さんに

気を遣わなきゃいけないイメージで

苦手意識があったけれど、

ファサードの壁がプライバシーを

守ってくれるところが嬉しい。

そのうち彼も一息つきに、

珈琲を片手に、窓際までやってくる。

これが私たちの、シンプルで大切な暮らし。

切り取られた私たちだけの星空を

それぞれに眺めながら、

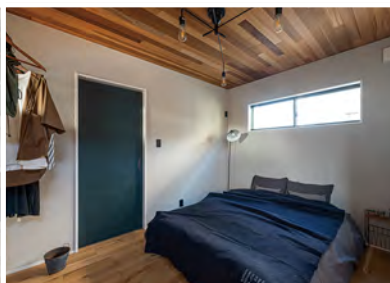
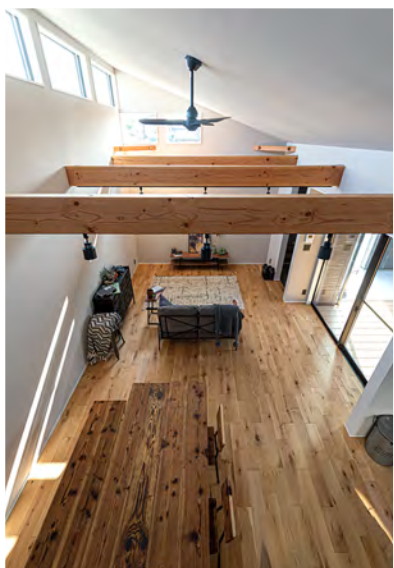
相変わらず別行動だけれど、

今までよりうんとつながっている気がした。

LIMINI

Ruutu 〈ルートゥ〉で暮らす

無駄を極限まで排除した正方形 - ミニマリストとして余計なものは持たず、快適に暮らしたい。その答えが、この正方形でした。足し算ではなく引き算で、自分の「好き」という答えを導き出してみませんか。





「Runtu」で暮らすのは、60代後半の夫婦。
二人の息子は共に結婚し、
それぞれに子どもがいて、夫婦は孫に
会うのを何よりの楽しみとしています。

家族四人で過ごした二階建ての
一軒家には思い出もありましたが、
夫婦だけで住むには

大きすぎるように感じ、
思い切って貸しに出すことに。
開放的なこの平屋を、

終の住まいとして選びました。
ただご主人は、

大人しく過ごす気は全然なくて……?

ひっそりと しっかり遊ぶ

人生百年時代といえども、70歳を目前にすると、
終の住まいというものを考える。

今までの二階建ては大きすぎるし、
かといって一軒家に慣れてしまっているから
マンションは難しそうだ。

そこで出会ったのが、この小さな平屋だった。

開放的な天井、健やかな日差し。

玄関からキッチンにかけての

リビングルームは広々としていて、

そのわりに寝室や浴室などの

プライベートがしっかりと

守られているところも気に入っている。

収納スペースとして活用できる広いロフトは、

週末のたびに遊びにくる孫たちの

秘密基地としても大活躍中。

越してきた日、吹き抜けを見上げつつ

ソファでくつろぎながら、

「落ち着いて暮らせそうね」と妻は言ったが、

僕はどちらかというと、

楽しみがありすぎて落ち着かない。

ハイサイドライトの下のまっさらな壁は、

DIY（今は日曜大工ではなくて

DIYというらしい）で収納を

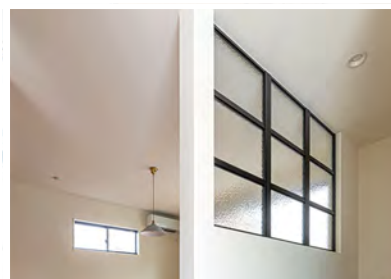
付け足すことができる。

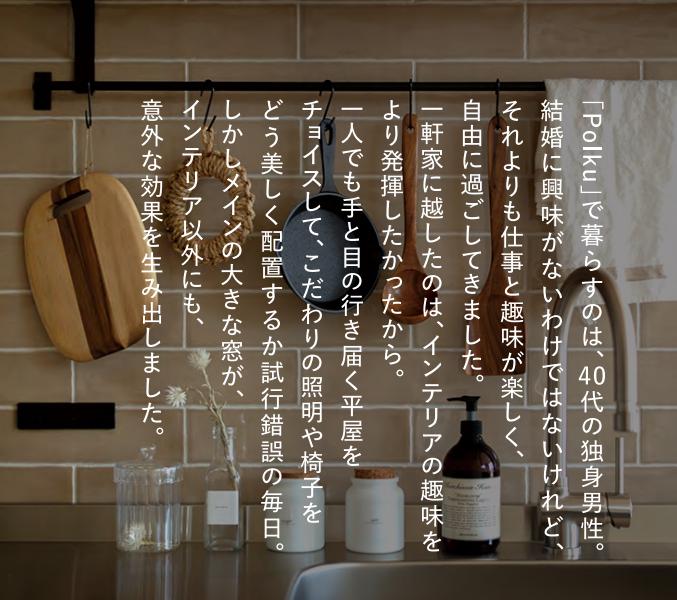


LIMINI

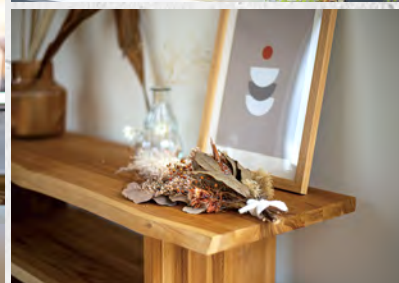
Polku 〈ポルク〉で暮らす

小道が個と繋がりを両立させた家 - 家の中に小道を造り込むことで、コの字の仕切りを生み出しています。暮らす自分を含めて空間をディスプレイし、お洒落に人生を楽しめる方に住んでいただきたい平屋です。





「Polku」で暮らすのは、40代の独身男性。結婚に興味がないわけではないけれど、それよりも仕事と趣味が楽しく、自由に過ごしてきました。一軒家に越したのは、インテリアの趣味をより発揮したかったから。一人でも手と目の行き届く平屋をチョイスして、こだわりの照明や椅子をどう美しく配置するか試行錯誤の毎日。しかしメインの大きな窓が、インテリア以外にも、意外な効果を生み出しました。

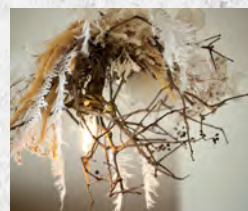


暮らしさえも デザインして

この平屋に決めたのは、外観に一目惚れしたからだ。3つ並んだ、大きな広い窓。この窓が、まるで美容室かカフェのような、お洒落で開放的な見た目を演出している。室中からだけでなく、屋外からも空間を楽しめる家は、インテリア好きな自分にとって理想そのものだった。

この家の外観は、窓から見える小道スペースに照明や絵画などを配置して、初めて完成するのだと感じた。基本的にはカーテンなどで隠さず、外へ見せることを前提として、空間を作っていききたい。さつそく3つ、名作照明を吊り下げよう。選んだのは、並べるとその姿がより愛らしい、ルイスボールセンのトルボー。

絵は、馴染みのギャラリーで、気になっていた新人作家にオーダーした。ここが完成したら、あとは水回りをぐるりと仕上げていくだけ。リビングルームにはあえてソファは置かず、愛用していたベルシャ絨毯と、



A Jフロアスタンドを。ダイニングには、こちらでも以前から持っていたYチェア。ライトは、雰囲気合わせてラジオハウスペンダントを新しく購入した。完成しつつある、マイホーム。男の一人暮らしとして、これほど充実した暮らしがあるだろうか。

ある日、室内の小道を歩いていると、ふと窓に映った自分の姿に気がついた。あれ？少し太ってきたんじゃない？この家は、あるいは自分も含めて、外観が完成するのだ。それから、食生活に気をつけ、ジムにも通った。僕は少し素敵になったよう、最近やたらと声をかけられる。暮らしさえもデザインして、後の同居人となる人がこの家に遊びに来る日も、もしかすると近いのかもしれない。

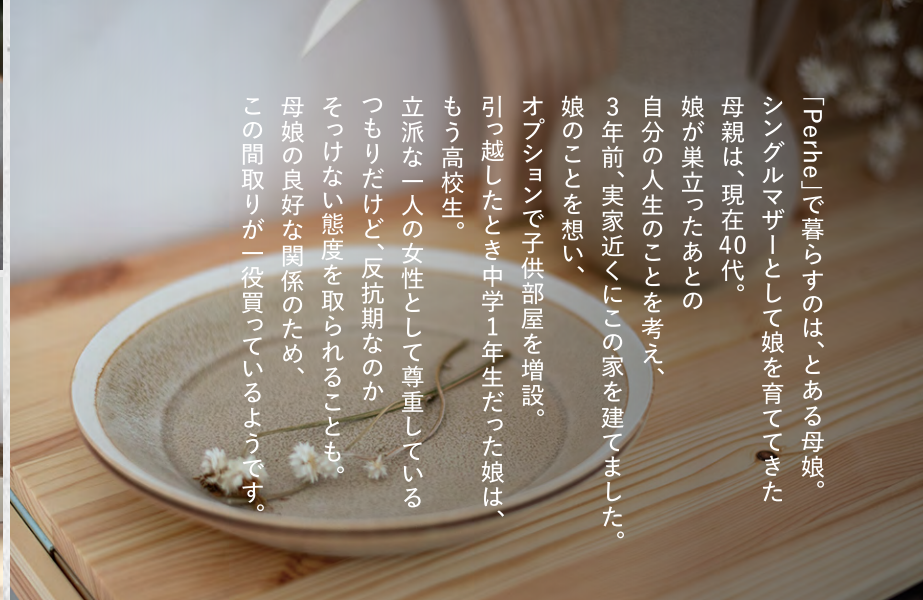


LIMINI

Perhe 〈ペルヘ〉で暮らす

家族それぞれのLifeStyleを尊重する空間 - 一緒に暮らすために何よりも大切なのは、きっとその距離感。つながりを感じつつ、家族それぞれの趣味や生活スタイルを尊重したい、そんなあなたにおすすめの家です。





「Pete」で暮らすのは、とある母娘。
シングルマザーとして娘を育ててきた
母親は、現在40代。
娘が巣立ったあとの

自分の人生のことを考え、
3年前、実家近くにこの家を建てました。
娘のことを想い、
オプショんで子供部屋を増設。

引越したとき中学1年生だった娘は、
もう高校生。
立派な一人の女性として尊重している
つもりだけど、反抗期なのか
そっけない態度を取られることも。
母娘の良好な関係のため、
この間取りが一役買っているようです。

仲直りは 我が家でのカフェで

いつまでも子供だと思っていた娘も、
もう10代後半。

大学進学で上京すると言っているので、
ここで一緒に暮らすのもあと少しだ。

寂しくないと言ったら嘘になるけれど、
一人になってからの暮らしもまた楽しみ。

オプショんで増設した娘の部屋は、
彼女が出たあと、

夢だったピラティスルームにするつもりだ。
いずれ両親の介護が必要になったら、

また部屋として整えて、
そこへ迎えようとも思っている。

絶賛反抗期の娘の部屋は、
土間を挟んだ向かい。

間取りとしては距離があるけど、
一緒に暮らすための工夫が、この家にはある。

実は今も、喧嘩中……
今朝は言いすぎたなと反省していると、

ガチャリと扉が開いた音がした。
娘が学校から帰ってきたようだ。

彼女は靴を脱がずに、
黙って土間のカウンターに腰掛けた。

これは、仲直りの合図。
私は娘にココアを持って行って、

そして互いに「ごめんね」を言う。



我が家の土間は、明るい光が降り注ぐ、
私たちのためのカフェ。

ここでは不思議と素直になれて、
不思議と会話が弾む。

「ママ、今日は久しぶりにロフトに
お布団敷いて寝ようよ。」

今度は私がココアを淹れてあげるから、
眠る前に、バルコニーで飲もう」

少女のようににはかむ娘の誘いを、
断れるわけがない。学校や彼氏の話を、

今夜は沢山聞いてあげよう。
ずっと一緒にいられるわけじゃないから、

かけがえのない時間を
より大切にできる住まいを選びたい。

私は、この家に越してきてよかった。

どんなライフスタイルにも寄り添いたいから。
CONCEPTモデルは、
それぞれ4つのスタイルからお選びいただけます。

ツールスタイル

良い意味で、無機質。
シンプルで快適な暮らしを、丁寧に重ねたい方に



インダストリアルスタイル

ガルバリウム鋼板を使用したモスグリーンの家。
ビンテージやアウトドアを愛する方に



ナチュラルスタイル

無垢の木が香る、優しい雰囲気。
大切な人との温かな時間を、空間から演出したい方に



ベーススタイル

まるで まっさらなキャンパスのよう。
ゼロから自分色に染めたい方に



贅沢に、 暮らしを楽しむ

「LIMINI」が提案する4つのリビング。
次の物語を紡ぐのは、

これをお読みのあなたかもしれません。

そこでは、憧れの照明や椅子を買ったり

DIYに一生懸命になってみたり

ちょっと良い珈琲を日常的にしたり

週に一度は美味しいケーキを食べたり

人生で初めてアートをオーダーしたり

いつだって自分のために暮らしを重ねて

そして、大切な人と、幸せだねって笑いあう。

本当の無駄を削ったからこそ、

無駄遣いが、無駄じゃなくなり、

真の贅沢を味わえるでしょう。

さあ、扉を開けてみませんか。

「わたしの暮らし」が、ここにあります。



ご詳細につきましてはお問い合わせください。

<https://limini.jp/>

